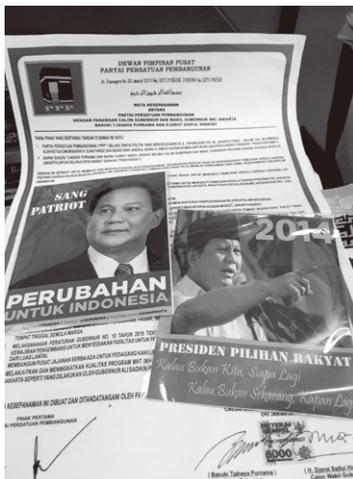


現地収集を知る ——KITLV-Jakartaを 訪問して——

土佐美菜実

今年3月、インドネシア・ジャカルタにあるライデン大学図書館の現地事務所であるKITLV-Jakartaを訪問した。KITLV-Jakartaはもともとオランダ王立言語地理民族学研究所（Koninklijk Instituut voor Taal-, Land- en Volkenkunde : KITLV）の一部だったが、2014年の組織改編にともない所蔵資料とともにライデン大学図書館へ移管された。現在では同大学図書館における現地資料の収集拠点としての役割を担っている。ライデン大学は歴史的背景などからヨーロッパにおけるインドネシア研究の中心地である。インドネシアをはじめとするアジア資料に特化したアジア図書館の建設など、現在もインドネシア資料のさらなる収集・提供に精力的に取り組んでいる。以下では、KITLV-Jakarta訪問の折に紹介いただいた収集活動について述べたい。

KITLV-Jakartaは南ジャカルタにあるオランダ大使館の敷地内にある。事務所の人員は、1名のオランダ人職員の方以外は全員インドネシア人スタッフ（8名）で構成されている。現地スタッフの多くはインドネシア各地の大学で図書館学や情報学などを専攻していた方々である。



収集資料の中にあつた2014年大統領選挙時の候補者ステッカー

ここでの業務のおおまかな流れは、インドネシア各地での資料収集、整理、そしてライデン大学図書館への発送である。収集する資料は、図書、雑誌、新聞、統計資料などのほか、特に重視しているのが中央・地方政府やNGOなどが発行する報告書類、いわゆる

灰色文献と呼ばれるものだ。これらの資料は当然、一般書店では入手が困難なため、中央・地方を含めた各政府機関などにインドネシア人スタッフが直接赴き、資料の入手を交渉する。一度入手先機関と



各行商人の名前が書かれたボックス。届いた資料が送り主の行商人ごとに仕分けられる

安定した関係を構築すると、先方から定期的に資料を送付してくれる場合もあるとのこと。このほか、ジャカルタのみならずインドネシア各地で開催されるブックフェアには必ず足を運び、地方の書店や出版社とのコネクション作りも欠かさない。

さらに、資料収集で欠かせないのが現地の行商人の存在であることをおしえてくれた。彼らは各々独自の入手ルートを持っており、灰色文献を含めた一般書店では売られていない、学術研究にとって非常に貴重な資料を卸してくれるという。KITLV-Jakartaでは10人程度の行商人とすでに売買ネットワークを築いており、定期的に購入リストを提示し、資料を購入している。しかしながら、行商人からの買い取り価格は彼ら同業者間で相場が決まっているようで、KITLV-Jakarta側からは交渉できないという事情も説明してくれた。また、KITLV-Jakarta以外にもオーストラリア国立図書館などジャカルタに収集拠点を置く欧米の図書館はいくつかあり、それらの機関と購入リストを共有して収集資料の棲み分けを行っているという。

こうして収集された資料はKITLV-Jakartaである程度書誌を作成し、その後資料本体をオランダのライデン大学図書館に発送する。

以上、KITLV-Jakartaにおける現地拠点の強みを活かした資料収集について紹介した。不定期に現地へ赴き資料収集にあたるアジ研のライブラリアンとして、今後どのような収集計画を組み立てるべきか、再考する貴重な機会となった。お忙しいなかあたたかく迎えてくださったKITLV-Jakartaの皆様へ感謝いたします。

（とさ みなみ／アジア経済研究所 図書館）